

授業科目	* 専門演習 I A (奇数)				単位	1		
履 修	必修	関連資格				ナンバリング	TO21803J	
開講年次	2 年	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP2-1 DP5-1			
担当教員	神崎 明坤							
授業概要	1年次に身に付けた学術的な姿勢を基盤とし、本演習では本格的な学術への入口に足を踏み入れる。本演習は必修科目であり、履修者全員を2つのクラスに分ける。2018年度は学籍番号が奇数の者は神崎担当のクラス、偶数の者は友原担当のクラスとなる。授業は両教員の専門に基づいたテーマで行なう。							
学生が達成すべき行動目標	研究の流れ(問題意識、研究目的、研究方法、調査、分析、結論など)を理解し、学術の素養を深化させることができる。							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	80	0	0	20	100	
知識・理解 (DP1-1)			30				30	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			30				30	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)								
態度 (DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)			20			20	40	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
研究の流れを十分に理解できる。				研究の流れを理解できる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	・ガイダンス ・先行研究			講義		復習		40

2	変化や問題についての受信 1	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
3	変化や問題についての受信 2	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
4	研究目的 1	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
5	研究目的 2	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
6	研究方法 1	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
7	研究方法 2	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
8	研究対象 1	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
9	研究対象 2	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
10	調査 1	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
11	調査 2	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
12	分析 1	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
13	分析 2	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
14	結論 1	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
15	結論 2	演習・講義	その日に学習した教科書に出ている課題に取り組む。	80
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				

27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	<ul style="list-style-type: none"> ・学術に向き合う姿勢。 ・日頃より新聞などを通して様々な事象に対する「アンテナを張って」おく。 			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「奇数」クラス(神崎担当): 第一講で説明 ・「偶数」クラス(友原担当): 友原嘉彦編著(2017)『女性とツーリズム 観光を通して考える女性の人生』古今書院 			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	両クラスとも授業内で適宜紹介する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	大学は専門学校ではありません。学術は森の中を歩くが如く「わからない」ものです。それでも次第に「こうかもしれない」という時が来ます。道を切り拓いていきましょう。			
達成度評価に関するコメント	2年後の卒論執筆に向け、まずは先人の取り組みを参考にしてください。			